

学校教育目標 ○なかよく助け合う子 ○元気で明るい子 ○よく考え 自ら学ぶ子



元気 やる気 笑顔

栃木市立西方小学校 令和4年度学校だより 2月号(2月1日) 文責：校長 岩出 岳

雪が心配されるような寒い日の続く中、元気に登校する子どもたちの姿に感心しています。この元気とやる気を大切に、春に向かっての準備を進めて行きたいと思います。

今月は、卒業・進級に向けた準備の本格的なスタートです。児童会、登校班等の場で、6年生から5年生へとバトンが渡されます。一つ一つの取組をチャンスと捉え、新学年に向けての心構えと自覚を児童が高めていけるよう支援していきます。ご家庭でも、進学や進級に向けての希望やここまで頑張ってきたお子さんの自己肯定感の高まりにつながるような言葉掛けへのご協力をお願いします。学校と家庭で協調し、子どもたちが大きく成長する機会となるよう指導、支援に取り組んでいこうと思います。

【入学時保護者説明会】1/19



1月19日に、令和5年度新入生の保護者の皆様にお集まりいただき、説明会を実施しました。本来であれば、入学予定

のお子さんにも学校に来ていただき、一日入学として西方小に少しでも慣れる機会としたいところでしたが、感染症対策のため、保護者の皆様のみにお集まりいただき、体育館で入学に関する諸準備について説明させていただきました。寒い中、熱心に耳を傾けてくださった保護者の皆様に感謝いたします。皆様のご協力で、PTA役員を選出、物品購入もスムーズに終了することができました。

入学式は、4月11日(火)になります。お子さんが不安にならないようにご準備いただきたいと思います。職員一同、新入生のみなさんのご入学を心よりお待ちしております。



【給食週間】1/23~27

今年度の給食週間では、給食の始まりから現在まで、様々な年代で食べられていたメニューを参考にした給食が提供されました。今も人気のメニューがいくつもありました。

そして、毎日、安全で安心な美味しい給食を作ってくださいる調理員さんへ、日頃の感謝を込めて子どもたちから手紙をプレゼントしました。日々変わらず美味しく調理してくださいる調理員の皆様、本当にありがとうございます。



給食委員会の子どもたちは、SDGsの視点で動画を作成し、集会の時間に全校生に向けて発表しました。楽しいアイデアのある劇でした。

成長過程の子どもたちにとって、食事はとても大切です。この給食週間をきっかけに、「食」について関心をもつことができたのではないかと思います。ご家庭でも、保護者の皆様が食べて

いた給食のメニューや家庭での食事について話題にいただき、「食」への関心を高めるきっかけとしてはいかがでしょうか。よろしくお願ひします。



【第3学年PTA活動】1/25

3年生の学年PTA活動では、万華鏡作りが行われました。親子で相談しながら素敵な作品を完成させていました。子どもたちはうれしそうにのぞき込んでいました。とても素敵な時間となったことと思います。学年委員の皆様、ありがとうございました。



3年生も次年度のPTA役員選出が行われました。ご協力ありがとうございました。

【学校運営協議会・学校評価委員会】1/27

1月27日に、学校評価委員会、学校運営協議会を開催しました。

学校評価委員会では、先日、保護者の皆様にご協力いただいた学校評価アンケートの結果について学校側から説明させていただきました。その結果をもとに協議していただき、様々な視点から貴重なご意見を伺うことができました。ありがとうございました。

学校運営協議会では、次年度の教育課程や学校経営方針案などについて説明させていただき、西方小学校をよりよくするために、委員の皆様からアドバイスをいただきました。来年度の学校経営に活かしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。



【ランドセルカバー・通学帽をいただきました】

西方地区社会福祉協議会より、ランドセルカバーと来入見用の通学帽をいただきました。ランドセルカバーはデザインが変わって、「とち介」のイラストが入っています。子どもたちが喜びそうです。児童の安全な登下校に役立てたいと思います。子どもたちの安全



を願う地域の皆様のお気持ちに感謝申し上げます。ありがとうございました。



【あいさつについて】

先日の各学校の学校評価の結果をもとに、西方ブロック小中一貫教育についての話し合う機会がありました。その中で課題の一つとして「あいさつ」が話題となりました。傾向としては、各校とも「できている」と評価している割合に児童・生徒と保護者・教職員間で隔たりがありました。児童・生徒の高い評価に比べ、大人の方が低い傾向です。本校でも、課題があるのご意見をいただいています。

大人と子どもで求めているあいさつのレベルに違いがあるのかもしれませんが、子どもたちの「できている」という意識を生かしながら、相手意識、時と場、心のふれあい等を指導し、形だけではない「よりよいあいさつ」について考え、実践できるように導く必要性を感じています。

児童会では、代表委員会で「よりよい学校にするために」との議題で話し合いを行い、「あいさつ・敬語・返事検定」を1月30日から実施しています。自分たちで課題をもち、解決に向けて実践に取り組む姿勢が、成果を生むのではないかと期待しています。

私たち職員も、本校の課題の一つとして共通理解を図り、取り組んでいきたいと思っております。家庭内での様々なあいさつについても、ご指導くださいますようご協力をお願いします。

【支援とは…】

1月の栃木市校長会での教育長指示事項で示された資料に、「支援」についての記述がありました。教員の授業に関してのものですが、一部の言葉をご紹介します。

「支援とは、子供がやりたいと願うことがスムーズに成就するよう、先回りしてお膳立てすることではない。必然的に出合うべき壁にきちんと出会い、自力でそれを乗り越えようとするところにこそ、学びや成長の契機はある。」(内外教育「子供のための授業づくり 乗り越えるべき壁」上智大学 奈須正裕 教授)

家庭での子育てにも役立つものかと思えます。ご参考になれば幸いです。

☆学校行事やお知らせ・各種おたよりをホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。
<http://tm2.tcn.ed.jp/nishikatasho>

